

# 東京大学

## 理学部 広報

第4巻 第4号 昭和47年5月20日

### 4月理学部会合日誌

- 4月 7日(金) 主任会議 (3:00~5:00)  
10日(月) 理学系研究科委員会 (2:00~5:00)  
12日(水) 人事委員会 (10:30~11:40)  
19日(水) 教授会 (2:00~6:30)  
20日(木) 会計委員会 (12:30~1:30)  
25日(火) 主任会議 (1:00~2:00)  
26日(水) 会計委員会 (12:15~1:30)  
教務委員会 (1:30~4:00)  
27日(木) } 国立10大学理学部長・事務長会議  
28日(金) } (広島大学)

### 6. 人事委員会報告

委員長今井教授から、3月29日、4月12日の委員会の内容、とくに理学部定員の現状および新委員長に江上教授が選ばれた旨、報告があった。

### 7. 幹事会報告

### 8. 大学改革について

改革室上村助教授と、改革委員会の朽津教授からの報告をもとに質疑が行なわれた。

### 9. 図書行政商議員報告

藤田教授から、図書館の改革について報告があった。

### 10. その他

- 1) 原子力研究総合センターについて、植村教授より説明があった。
- 2) 教育用計算センターについて。島内教授から、データセンターを改組、拡充し上記センターを設け、来年一月以前に業務開始の予定である旨、報告された。
- 3) 植物園パーティーは、5月22日(月)3時~5時開催の予定。雨天の場合は29日に延期。

### 教授会メモ

4月19日(水) 定例教授会  
於4号館物理会議室

1. 前回議事承認
2. 人事異動等報告
3. 研究生入学ならびに期間延長について  
各教室主任から報告があり、全般的にみて、いわゆるオーバードクターが多いことが注意された。
4. 昭和47年度受託研究員ならびに私学研修員の受入報告
5. 学内情勢について
  - 1) 下郡山教授から、植物学科所属の学生がスキー山岳部で登山中、遭難した件について報告があった。
  - 2) 学部長代理から教養学部ストライキと本郷進学の見通しについて、説明があった。つづいて新3年の学年暦について議論された。

### 理学系研究科専門課程主任 (47. 4. 1)

数 学	田村教授	物 理 学	宮沢教授
天 文 学	末元教授	地球物理学	岸保教授
化 学	田丸教授	生 物 化 学	野田教授
動 物 学	江上教授	植 物 学	古谷教授
人 類 学	渡辺教授	地 質 学	立見教授
鉱 物 学	湊 教授	地 理 学	佐藤教授
相関理化学	阿部教授	科学史科学	木村教授
		基 礎 論	

## 教官人事異動 (除 退・休職)

氏名	所属	異動内容	発令年月日
水野 丈夫	動物	教授に昇任	47. 4. 1
花井 哲郎	地質	教授に昇任	47. 4. 1
鎮西 清高	地質	助教授に昇任	47. 4. 1
薬師 久弥	化学	助手に採用	47. 4. 1
新田 勲	地物	助手に転任	47. 4. 1

### 外国人研究員

教室(所属)	国籍	氏名	現職	研究期間
地球物理	ソ連	Y. Lossousky	ウクライナ科学アカデミー地球物理研究所副所長	昭47. 3. 9 ~ 昭47. 4. 10

### 理学博士学位授与者

昭和 47 年 4 月 10 日授与者

	氏名	論文題目
生物化学	杉山博之	Some properties of synaptosomal membranes 神経終末顆粒膜の諸性質 シナプトゾーム
学位規則 第3条第 2項該当	太田朋子	Theoretical study on linkage disequilibrium and associative overdominance in finite populations (有限集団における連鎖不平衡とみかけ上の超優性に関する理論的研究)
同	小島圭二	新生代堆積物の物理的性質に関する研究——東京湾口の地質を中心として——

### 臨時カリキュラムについて

御承知の通り、本学では昭和 45 年度入学学生より、「臨時カリキュラム」と呼ばれる新しいカリキュラムが実施されております。

このカリキュラムは、昭和 45 年 2 月 1 日評議会決定の「昭和 45 年入学学生カリキュラム改定要綱」に従っており、1. 一般教育と専門教育の関連を深める、2. 全学一般教育ゼミナールを開設するというのが要点です。1. は一部の一般教育科目(いわゆる教養科目)を3~4年に上げると共に、一部の専門科目(または専門的科目)を1~2年に下げる、いわゆるくさび型のカリキュラムを意味します。

理科系については、振分けがすむ前に専門科目を置く

ことができないという事情があって、不徹底なものとなっておりますが、主として理学部へ進学する学生の場合、どのような改定がされたか紹介しましょう。

### 教養学部における措置

#### A. 自然科学の科目

##### 1. 数学

改定前

	1 学期	2 学期	3 学期
理 I	{ 2 コマ* (必修) 演習1/2** (選択)	{ 2 (必修) 演習1/2** (選択)	1 (必修)
理 II, III	{ 2 (必修) 演習1/2** (選択)	{ 2 (必修) 演習1/2** (選択)	1 (選択)

であったものを理 I, II, III の区別なく次のように改める。

改定後

	1 学期	2 学期	3 学期
	{ 2 (必修) 演習 1 (選択)	{ 2 (必修) 演習 1 (選択)	1+1 (選択)

但し、1, 2 学期の授業と演習を合わせたものの科目名を「数学」とし、4 単位を与える。演習はほぼゼミナール扱いとし各 1 単位を与える。3 学期分の科目名は「解析学 I」および「解析学 II」とし、それぞれ 1 単位を与える。

##### 2. 物理学

改定前

	1 学期	2 学期	3 学期
A 1 (必修)	{ 1 (必修) 実験2/2*** (必修)	{ 2 (必修) 実験2/2*** (必修)	
B 1 (必修)	{ 1 (必修) 実験2/2*** (必修)	{ 1 (必修) 実験2/2*** (必修)	

を A, B の区別をなくし次のように改める。

改定後

	1 学期	2 学期	3 学期
	1 (必修)	2 (必修)	1+1 (選択)
		実験 1.5 (必修)	または実験 1.5 (必修)

但し、1 学期と 2 学期の授業を合わせたものを「物理学」とし、4 単位を与える。これと 2 学期または 3 学期に行なわれる実験の 1 単位を合わせて 1 科目とする。3 学期に開設される選択科目は「量子力学」および「現代物理学」とし、各 1 単位を与える。前者は理 I の学生を、後者は理 II の学生を主な対象とする。

##### 3. 化学

改定前

	1 学期	2 学期	3 学期
1 (必修)	{ 1 (必修) 実験2/2*** (必修)	{ 1 (必修) 実験2/2*** (必修)	

\* 毎週 2 時間 (実質は 1 時間半) の授業単位。以下省略。

\*\* 隔週 1 コマ

\*\*\* 隔週 2 コマ

を次のように改める。

改定後

1 (必修) 2 (必修) 1 (選択)

実験 1.5 (必修) または実験 1.5 (必修)

但し、1 学期と 2 学期の授業を合わせたものを「化学」とし、4 単位を与える。これと 2 学期または 3 学期に行なわれる実験 1 単位を合わせて 1 科目とする。3 学期の選択科目は「有機化学」とし 1 単位を与える。

#### 4. 地学

1 (選択) 1 (選択)  
実習 1.5 (選択)

但し、講義 4 単位と実習 1 単位を合わせて 1 科目とする。

#### 5. 生物学

理 I { 1 (選択) 1 (選択)  
          { 実験 2 (選択)  
理 II, III { 2 (必修) 1 (必修) 1 (必修)  
              { 実験 2 (必修)

但し、理科 I 類の学生に対するものも理科 II, III 類の学生に対するものも、講義は全部まとめて 4 単位とし、理 II, III の学生に限り実験 1 単位とを組合わせて 1 科目とする。理科 I 類の学生も実験 1 単位を選択することができる。

#### 6. 図学

1 (選択) 1 (選択)

実習 2 (選択)

但し、講義 4 単位と、実習 1 単位を合わせたものを 1 科目とする。

以上 3 科目については変更しない。理学部に進学するためには、「数学」、「物理学」、「化学」の他、上の 3 科目のうち 1 科目を履習しておかなければならない。

7. この他に、第 3 学期に一般教育科目の選択科目として、「線型系理論」、「材料科学」、「生物科学 I」および「生物科学 II」を開設する。これらは毎週 1 コマの授業で、各 1 単位を与える。

8. 3 学期に開設される選択科目、「解析学 I」、「解析学 II」、「量子力学」、「現代物理学」、「有機化学」、「線型系理論」、「材料科学」、「生物科学 I」および「生物科学 II」は、本郷各学部により、専門教育科目の単位に認定されることがある。(これらの科目の内容については、昭和 45 年 12 月 15 日発行の教養学部報を参照のこと。理学部では各学科の規則が許すかぎり、全科目を専門科目として認定する。)

### B. 自然科学以外の科目

#### 1. 社会科学

改定前は、1～2 学期および 2～3 学期の通年講義で

あったがそのうち 2～3 学期にわたる通年講義をとりやめるとともに、3～4 学期にわたる通年講義を 1 コマ、理科各類の共通講義としておく。

この結果、1～2 学期には、「法学」、「政治学」、「経済学」、「統計学」、「社会学」、「社会思想史」、「国際関係論」(いずれも週 1 コマ、4 単位)が、最大限 3 科目までとれる形で、3～4 学期には、「法学」、「経済学」、「統計学」が 1 科目だけとれる形で開設される。

#### 2. 人文科学

改定前は、1, 2, 3 の各学期週 2 コマの学期別完了講義が行なわれていたが、これらを改め、原則として 1～2 学期の通年講義とするとともに、3～4 学期にわたる通年講義を 1 コマ、理科各類の共通講義としておく。

この結果、1～2 学期には、「哲学概説」、「論理学」、「倫理学」、「教育学」、「国史」、「東洋史」、「西洋史」、「人文地理学」、「人類学」、「国文学」、「国語」、「漢文」(いずれも週 1 コマ、4 単位)が、最大限 2 科目までとれる形で、3～4 学期には、「哲学概説」、「論理学」、「倫理学」、「教育学」、「国史」、「東洋史」、「西洋史」、「人文地理学」、「人類学」、「国語」、「漢文」が 1 科目だけとれる形で開設される。また、1, 2, 3 学期に「心理学」(週 2 コマ、4 単位)が、2～3 学期に「西洋文学史」\* (週 1 コマ、4 単位)が開設される。

なお、この他に 1～4 学期にわたって「外国文学」(週 1 コマ、4 単位)が必修として課される。(実質的には、これは第 2 外国語の補いである。)

3. 人文科学および社会科学の履修について、専門学部に進学するための要件を人文科学、社会科学共 3 科目 12 単位以上であったものを、2 科目 8 単位以上に改める。

以上は理科系の学生に対する改定ですが、文科系学生に対しては、一般教育科目社会科学および人文科学については理科系学生とほぼ同じ措置をとり、自然科学については第 3 学期の週 4 コマの講義のうち、2 コマをとりやめました。その代わりに、第 3 学期に、法学部、経済学部がそれぞれ週 5 コマ、10 単位、文学部が週 4 コマ、8 単位、教育学部が週 2 コマ、4 単位の専門教育科目の講義を開設しました。

参考のため、第 3 学期に開設された一般教育科目自然科学の履修者数と開設コマ数を以下に示します。なお、在籍者数は、理科 I 類、II 類、III 類がそれぞれ 1090、510 および 90 名です。

\* 昭和 47 年度から「外国文学史」と改められ、3～4 学期にうつされる。

科 目		解析学 I	解析学 II	量子力学	現 代 物理学	有機化学	線 形 系 理 論	材料科学	生物科学 I	生物科学 II
履 修 者 数 ( <b>コ</b> マ数)	理 I	1078 (11)	958 (11)	802 (8)	251 (3)	424 (8)	778 (10)	606 (7)	51 (2)	54 (3)
	理 II	352 (3)	336 (3)	198 (2)	236 (2)	482	96	45	273	347

### 本郷各学部における措置

理科系各学部の学生に対し、一般教育科目の共通科目として、社会科学週1コマ、人文科学週1コマの通年講義を置く。これらは、3年、4年のいずれでも聴講することができる。とされ、昭和47年度第5・6学期については次の科目が開設されることとなりました。

理学部の進学学生のための時間帯は、土曜日 8:30～10:00 と 10:30～12:00 で、この時間帯には理学部の必修の専門教育科目は置かないことになっております。しかし、選択科目または自由科目を並置することは認められました。また、学生は必ずしも学部の指定する時間帯の科目をとる必要はなく、週4コマ開設されるどの科目をとってもよいことになっております。

### 昭和47年度 第5・6学期に開設される

#### 一般教育科目

理学部進学学生を対象とするものは次の通りです。

#### 人文科学

土曜日 8:30～10:00 菓, 第一講義室

「文化人類学」(正式の科目名は「人類学Ⅱ」) 担当: 中根千枝(東洋文化研究所)

(社会組織の比較研究) 社会人類学の方法論による社会構造の分析方法の解説を主眼とする講義で、具体的データに基いて、異なる社会の諸集団の構造的特色を比較考察する。(世話学部 菓学部)

土曜日 10:30～12:00 農3号館 237号室

「現代アジアの政治と思想」(正式の科目名は「歴史学(一般)」) 担当: 上原淳道(教養学部歴史学)(世話教育), 板垣雄三(教養学部歴史学), 石田保昭(教養学部歴史学), 丸山松幸(教養学部漢文学), 鳥海 靖(教養学部歴史学)

アラブ、インド、中国、朝鮮、日本の場合について、5人の教官がそれぞれの問題関心や方法論にもとずき、現代政治の動向と、それと密接にかかわる思想とを追求する。(世話学部 農学部)

#### 社会科学

土曜日 8:30～10:00 理学部化学新館講堂

「経済学」担当: 玉野井芳郎(教養学部), 内田忠夫(教養学部), 嘉治元郎(教養学部)

マクロ経済理論によって経済全体の動きの解明を試み、それと同時に現実の経済動向を理論に即して取り上げ、経済問題への関心を高めるようにする。

つぎにミクロ経済理論を教えて、全体の中での個々の経済主体の行動原則、それら経済主体が集まって形成する経済現象の性質を明らかにする。

第3にこうした経済理論を基礎にした経済政策の問題、また既成の理論では本格的に取り組めないがトピックとしては経済学と重要なかわりあいをもつと思われる事柄を取り上げて議論の資料とする。(世話学部 理学部)

土曜日 10:30～12:00 法文1号館 25番教室

「法学」担当: 松尾浩也(教養学部), 長尾龍一(教養学部), 筒井若水(教養学部), 原田尚彦(教養学部)

法学の授業はつぎの4つの課題について行なう。まず第1は法全体を概観することを目的とし、法とは何か、法の歴史、法と法学との関係が主要なテーマとしてとりあげられる。

第2部は、主に刑事法を扱うこととし、犯罪と刑罰、刑事手続と人権、裁判論ならびに家族に関する法が論じられる。

第3部は、公害に関する法制の概観にあてられ、公害の民法による救済、行政上の予防と救済、環境保全法の概要が説かれる。

第4部は、国際法を対象とし、戦争と法、国際連合、海洋法が主なテーマとされる。

なお、授業は、4人の教官がそれぞれ、専門の立場から分担する予定である。(世話学部 法学部)

他に必ずしも理学部進学学生を対象としないものとして次の授業があります。

## 人文科学

月曜日 3:00~4:30 教育 359 教室

「人間論」(正式の科目名は「哲学(一般)」)担当: 原佑(教養学部)

E. Heinemann: *Neue Wege der Philosophie, Geist/Leben/Existenz.* を基礎にし, 時代背景, 他分野にも考慮をはらい, 私見を加えつつ, カント以後のドイツ哲学を中心として, その人間観を展開してみたいと思う。(世話学部 教育学部)

## 社会科学

月曜日 3:00~4:30 経済別館第一教室

「統計学」担当: 村上泰亮(教養学部), 中村隆英(教養学部)

統計学は, 前半を村上, 後半を中村が担当する。聴講者の学習環境にかんがみ, 前半においては, 統計学の基礎概念を中心に, 後半においては, その経済学への応用を中心に講義がなされる。

前半では統計の基本用語, 確率の考え方をまず要約し, さらに主たる確率分布についての概念を確実に掴ませる。さらにそれをふまえて, 政治学などの方法に役立つと思われる因子分析法, 判別函数などにふれ, 確率に関しては, 主観確率と意志決定, マルコフ過程, ゲームの理論などの初歩に及ぶ。

後半では経済統計の解説, 最小二乗法, 時系列分析から計量経済学の考え方の基礎に及ぶ。(世話学部 経済学部)

水曜日 3:00~4:30 法文 2号館 3番大教室

「社会思想史」担当: 城塚 登(教養学部)

20世紀に登場してきた代表的な社会思想について考察を加え, 今日のわれわれが築くべき社会思想を追求する。

1. 「修正主義」とレーニン
2. ルカーチとハンガリー革命
3. 毛沢東と中国革命
4. ファシズムと大衆民主主義
5. フロムとマルクーゼ
6. サルトルとフランス知識人

第1年度は, 以上の項目のうち2・3のものを講義する予定である。(世話学部 文学部)

## 自然科学

水曜日 3:00~4:30 工2号館大講堂

「自然科学論」(正式の科目名は「自然科学(一般)II」)

## 夏学期「自然科学の方法」

1. 実験と理論(5回)担当: 野上茂吉郎(教養学部)(世話係), 今井 功(理学部)

科学史の中からいくつかの具体例をとって, 実験と理論との複雑で微妙な絡み合いの様相について説明する。  
[例] Cavendish Group から Millikan にわたる電子・電荷の精密測定, 中性子の発見における Bethe, Joliot-Curie, Chadwick の寄与, Mössbauer 効果, その他。

2. 「理論における方法」(4回)担当: 杉本大一郎(教養学部), 藤田純一(東京教育大学), 江沢 洋(学習院大学)

自然科学における理論の構築における種々の方法, たとえば, 「近似」, 「モデル」, 「現象論」その他の役割などについて, 具体例にもとづいて説明する。

3. 自然科学にもとづく自然認識(5回)担当: 柿内賢信(物性研究所), 大森荘蔵(教養学部)

方法との関連において, 自然科学での自然の認識の立場について, いくつかの具体的な場合, たとえば, 相対性理論, 原子物理学, 宇宙物理学での諸問題などについて検討する。

4. シンポジウム(1回)

## 冬学期「ヒトと自然」

1. 生体の恒常性はいかに維持されているか(5回)担当: 水野伝一(薬学部), 木下武二(教養学部), 原襄(教養学部)

生体が外界の変化の中で, いかにその恒常性を保つべく巧妙に仕組みられているかについて, 一定の生命の秩序を維持している生体調節の仕組みのあり方, 外界の変化から独立して生活し得るための自己防衛機構はどのようなものかを考えながら, 一定の秩序はどのような場合にくずされるかをたずねる。

2. 生命の発現を支配する遺伝はいかにあるか(5回)担当: 飯野徹男(理学部), 井上英二(医学部), 伊藤正男(医学部), 磯 晃二郎(教養学部)(世話係)

生体の形質発現を基本的に規制限定している遺伝とはいかなる仕組みによって維持発現されているのか。その歴史的発展としての生物の進化とは何か。現在進化の頂点にある人間を含めた高等動物の高次神経系の中心にある脳とはいかなる存在か。それはいかなる遺伝支配の下にあるかをもたずねてみたい。

3. 生命と環境の相互作用はいかなる意味をもつか(5回)担当: 門司正三(理学部), 八巻敏雄(教養学部), 三浦悌二(医学部), 原 襄(教養学部)

生命の進化発展における環境との相互作用は生命の本質といかなる関わりをもっているか。人間にとって環境

はいかなる意味をもっているか。人間生存における環境の現代的意味を生物学的立場から問いかけてみたい。  
(世話学部 工学部)

特に、「自然科学論」については、講義と討論の内容は全学の文学系・理学系の3、4年学生や大学院学生も

きけるように工夫する。このような教育の場で、各分野の専門家が入れ代りそれぞれ自分の立場からの話をするを数年間にわたって積み上げることができれば、1つの総合研究としての意義も生まれてくるであろう、と  
いっております。  
(小松彦三郎)

昭 和 48 年 度  
東京大学大学院理学系研究科修士課程学生募集要項

1. 出願資格

- (1) 大学を卒業した者および昭和48年3月卒業見込の者
- (2) 昭和28年文部省告示第5号をもって文部大臣の指定した者
- (3) 外国の大学を卒業した者
- (4) 学校教育法施行規則第70条第3号の規定により、本学大学院において、大学を卒業した者と同等

以上の学力があると認めたる者

2. 選抜方法

- (1) 入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、出身学校の成績および健康診断による。
- (2) 外国人学生は、本学大学院外国人学生の入学に関する規程による。

3. 専門課程別試験科目および収容予定人員

専門課程名	試 験 科 目			収 容 予 定 人 員
	第 1 次 試 験 (筆記)		第 2 次 試 験 (筆記・口述)	
	一 般 教 育 科 目	外 国 語	専 門 科 目	
数 学	数 学 I	英・独・仏・露のうち2カ国語	数 学	約 27 名 (うち統計学または情報科学を主とする者約 3 名)
物 理 学	数学Ⅱ・物理学・化学・生物学・地学のうち2科目		物 理 学	約 55 名 (うち情報科学を主とする者約 3 名)
天 文 学	数学Ⅱ・物理学		天 文 学	約 6 名
地 球 物 理 学	数学Ⅱ・物理学		地 球 物 理 学	約 18 名
化 学	物理学のほか、数学Ⅱ・生物学・地学のうち1科目		化 学	約 41 名
生 物 化 学	数学Ⅱ・物理学・化学・生物学のうち2科目		生 物 化 学	約 22 名
動 物 学	生物学のほか、化学・物理学のうち1科目		動 物 学	約 9 名
植 物 学	物理学・化学・生物学・地学のうち2科目		植 物 学	約 12 名
人 類 学	生物学		人 類 学	約 5 名
地 質 学	数学Ⅱ・物理学・化学・生物学・※地学のうち2科目		地 質 学	約 14 名
鉱 物 学	数学Ⅱ・物理学・化学のうち2科目		鉱 物 学	約 4 名
地 理 学			地 理 学	約 8 名
相 関 理 化 学	数学Ⅱ・物理学・化学・生物学のうち2科目		相 関 理 化 学	約 20 名
科 学 史 ・ 科 学 基 礎 論	数学Ⅱ・物理学・化学・生物学・地学のうち1科目		科 学 史 ・ 科 学 基 礎 論	約 6 名

※ 地質学専門課程志願者のうち、学部において地質学・鉱物学・地理学を専攻した者は、一般教育科目の「地学」を選択することはできない。

備 考

- 1) 数学専門課程志願者に対する「数学Ⅰ」の出題範囲は、一般教育科目としての数学のほかに、位相空間

論・線型代数・関数論・積分論・常微分方程式などの基礎的な部分を含む。

- 2) 「数学Ⅱ」は、数学専門課程志願者以外に対する一般教育科目である。
- 3) 試験の成績によっては、収容予定人員に達しない場合でも入学を許可しないことがある。
- 4) 各専門課程の指導教官並びに専攻分野については、理学部事務部に一覧を備えてあるから、志望専門課程明記のうえ請求すること。

#### 4. 試験期日および場所

- (1) 試験は、第1次試験および第2次試験に分ち、次の日程により行なう。

	試験期日
第1次試験 (一般教育科目, 外国語)	9月18日(月)
第2次試験 (専門科目の筆記および口述試験)	9月22日(金) ~29日(金)

- (2) 健康診断は、9月19日(火)に行なう。
- (3) 試験の時間割および場所は、おって志願者に通知する。

#### 5. 合格者の発表

- (1) 第1次試験合格者および第2次試験合格者(入学許可内定者)は、次の期日に掲示する。

	発表期日
第1次試験 (一般教育科目, 外国語)	9月22日(金)
第2次試験 (専門科目の筆記および口述試験)	10月3日(火)

- (2) 入学許可は、昭和48年3月末、郵送により本人に通知する。

#### 6. 出願期間

昭和47年8月21日(月)から9月2日(土)まで。

郵送の場合は、9月2日(土)付けの消印のあるものまで受付ける。

#### 7. 出願手続

- (1) 願書受付

ア 場所 東京大学大学院理学系研究科事務部  
(東京都文京区本郷7丁目3番1号)  
郵便番号 113 電話 03-812-2111  
(東大代表) 内線 7493

イ 時間 平日 午前10時から午後3時まで  
土曜日 午前10時から正午まで

- (2) 提出書類等

ア 入学願書(本研究所定の用紙に所要事項を記入したもの)

イ 出身学校の指導教官またはこれに代わるものの推薦書(様式随意)

ウ 調査書(本研究所定の用紙に出身学校において所要事項を記入したもの)

エ 写真2葉(3ヵ月以内撮影の正面上半身脱帽の写真を所定欄に貼付けること)

オ 官公庁、会社等に在職の者は、その長または代表者の受験承諾書(様式随意)

カ 返信用封筒(出願者本人の宛名を記入し、90円切手を貼ること)

- (3) 本学を卒業した者および卒業見込みの者は、推薦書および調査書を提出する必要はない。

- (4) 外国人は、なお、このほかに次の書類を提出すること。

ア 指導教官もしくはこれに準ずる者による日本語の学力を表わす成績証明書

ただし、日本の大学を卒業した者についてはこれを免ずる。

イ 在留資格票(本研究所定の用紙に必要事項を記入したもの)

ウ 日本国政府の発行する外国人登録済証明書

- (5) 検定料 5,000円

郵便為替の場合は、60日以内発行のもので、指定受取人は東京大学大学院理学系研究科事務部とすること。

- (6) 出願する際は、前記の書類に検定料を添え、出身校を経て提出すること。

ただし、事情によっては直接提出してもよい。

#### 8. 注意事項

- (1) 郵送により出願する際は、書留郵便とし、封筒に「大学院理学系研究科入学願書」と朱書すること。

- (2) 提出期日までに所要の書類が完備しない願書は受理しない。また、出願手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更および検定料の払戻しはしない。

- (3) 受験票は、出願手続完了後直接本人に郵送する。9月13日(水)までに到着しない場合は、必ず本研究所事務部(7の(1)ア)に連絡し、受験に必要な指示を受けること。

- (4) 官公庁に在職の者は、入学試験に合格しても、

退職するか、または、休職にならなければ、入学することはできない。

て、変更することもある。変更があった場合は、あらかじめ通知する。

(5) 事情によっては、出願手続、試験期日等について

昭和 47 年 4 月

## 昭和 48 年度

### 大学院修士課程入学試験第 2 次試験 (専門科目) 試験期日および試験内容一覧

東京大学大学院理学系研究科

専門課程	試験期日		専門科目の試験内容
	筆記	口述	
数 学	9 月 25 日 (月)	9 月 28 日 (木) 29 日 (金)	受験者は、十数題の問題から定められたルールにより各自の専攻分野に属する問題を数題選んで解答する。そのほかに、特に興味をもった数学の分野および書物について感想を述べる。 筆記試験合格者に対し、1 人 40 分程度の面接試験を行なう。
*物 理 学	9 月 25 日 (月)	9 月 26 日 (火) 27 日 (水)	1. 一般教育科目の試験によって、収容人員の約 1.5 倍を選抜し、これに専門科目筆記試験と口述試験を課する。筆記試験は、物理学の諸分野から基礎的な問題 (約 6 題) を出題し、そのうち 4 題を解答させる。口述試験はサブコースごとに行なう。 2. 物理学専門課程は A1-A6 ならびに B の 7 サブコースに分けられ、物性研教官は B の指導にあたり、それ以外の教官が A の指導にあたる。サブコース B の募集定員は約 7 名である。また、A6 には情報科学を主とする者約 3 名を含む。サブコースに関しては別表「指導教官専攻分野一覧」を参照すること。
天 文 学	9 月 22 日 (金)	9 月 22 日 (金)	筆記試験は、天文学、物理学、数学の各範囲からそれぞれ 2 題出題し、そのうち 3 題を選択解答させる。 ただし、物理学、数学については、天文学に比較的關係の深い分野から出題される。
地球物理学		9 月 26 日 (火) 27 日 (水)	筆記試験は行わず、地球物理学を研究するために必要と考えられる基礎的な問題について口述試験を行なう。
*化 学	9 月 25 日 (月)	9 月 28 日 (木)	専門的研究を行なうにあたり必要な化学全般の基礎知識ならびに思考能力を筆記および口述によって試験する。
*生 物 化 学	9 月 22 日 (金)	9 月 25 日 (月) 26 日 (火)	生物化学の研究に必要な物理化学、化学、生物学等の基礎的事項に関する指定問題、および生物化学とその関連分野の選択問題とが併せて出題される。
*動 物 学	9 月 22 日 (金)	9 月 23 日 (土)	動物学の各分野において専門的研究を行なわんとするにあたり、必要と考えられる動物学の基礎知識ならびに思考能力を試験する。筆記試験の内容は、生理学、生化学、形態学、細胞・組織学、発生学、系統分類学等より約 9 問を出題し、任意に 6 問を選択解答する。 なお、口述試験も上記の基準の判定に加えられる。
*植 物 学	9 月 22 日 (金)	9 月 25 日 (月)	筆記試験は、個体・集団、細胞、物質を中心とした各レベルごとに 3 題が出題され、そのうち各レベルごとに指定された各 1 題と、残り 6 題中から任意の 3 題を選択、合わせて 6 題を解答する。
*人 類 学	9 月 25 日 (月)	9 月 20 日 (火)	自然人類学の諸分野に関する問題につき、筆記ならびに口述試験を行なう。詳細は別紙「説明書」を参照のこと。



専門課程	試験 期 日		専 門 科 目 の 試 験 内 容		
	筆 記	口 述			
地 質 学	9 月 25 日 (月)	9 月 26 日 (火)	学部において地質学、鉱物学、地理学を専攻したものに對しては、下記Aを、それ以外のものに對してはBを内容とする。 後者の場合は、入学願書中に専門科目筆記試験としてどの分野の科目を希望するか、(数学、物理学、化学、生物学など)を明記しておくこと。		
				A	B
			1. 筆記試験	地質学、鉱物学	数学、物理学、化学、生物学(なお、地質学、鉱物学で受験することもできる)
			2. 外国語論文訳読	地質学に関する外国語論文を読み(辞書使用可)、その大要をまとめる。	同 左
3. 口述試験	主に卒業論文等に関係した研究内容	地質学課程を希望した理由、特に専攻した教科内容との関連、一般的な地質学の知識など。			
鉱 物 学	9 月 25 日 (月)	9 月 25 日 (月)	地質学、鉱物学関係の学科の出身者には、鉱物形態学、結晶学、結晶光学、鉱物化学等の筆記試験および口述試験を行なう。それ以外の学科の出身者に対しては、それら出身者の学科における履修科目の中で、本課程の修士課程において学修、研究を行なう事柄と関係の深い分野についての知識をテストするために、上記の地質学、鉱物学関係の学科の出身者に対する問題以外に、追加出題する。 この場合には、追加問題に対する得点総計を重視する。		
地 理 学	9 月 27 日 (水) 28 日 (木)	9 月 29 日 (金)	自然地理学、人文地理学および地誌の各分野から出題し、それらのすべてについて解答を求める。さらに研究能力の判定を目的とした小論文の作成を課す。		
*相関理化学	9 月 25 日 (月)	9 月 27 日 (水) 28 日 (木)	専門科目の筆記試験は次の要領で行なわれる、「数学、物理学、化学、生物学の範囲からそれぞれ3題、鉱物学の範囲から1題計13題を出題しそのうちの3題を選択解答させる。」		
*科学史・科学基礎論	9 月 25 日 (月)	9 月 26 日 (火)	筆記試験は、科学史・科学基礎論に関して提出された若干の問題のなかから選択し、主として論文形式によって答える。科学史または科学基礎論に関するもののうち、いずれか一方のみ選ぶこともできる。		

(注) \*印の専門課程では、指導教官専攻分野一覧とは別に、専門課程の内容を詳述した入学志願者に対する「説明書」を用意してあるので、希望者は返信用封筒同封のうえ、理学系研究科事務部に請求すること。

## お 知 ら せ

○オーストラリアクィーンズランド大学

1973 年度研究員募集について

期 間: 1973 年度 (原則として1年間)

分 野: 人文科学・社会科学・自然科学

資 格: 博士取得者・1972 年 9 月までに博士取得者

締切日: 47 年 8 月 1 日まで

その他、詳細は理学部大学院掛まで照会のこと。

○1972~73年度ダルハウジー大学アイザク・ウォルトンキラム記念奨学金留学生募集について

分野: 自然科学, 人文科学, 社会科学

課程: 修士・博士

給費: 給費額 4,200 (カナダ・ドル)

その他、詳細は理学部大学院掛まで照会のこと。

## 広報編集を終るにあたって

世の中に“糊と鉄による編集”というコトバがあるが、理学部広報で私のやったことは、まさにこれ以外の

何者でもない。大変有能な前任者に引きかえ大変怠け者の私は、まとまった本文はおろか編集後記さえも二回しか書いていない。しかし、最後になってとうとう後任の塩田さんから“何か書け”とつかまってしまった。いままで、多くの方々に無理に原稿をお願いして書いていただいた手前、自分の番になって“ハイ左様なら”と逃げるわけにもゆかず、この2年間のことなどを振り返ってみることにする。

理学部広報の創刊は昭和44年1月15日であり、例のラグビー場での7学部集会の直後に出ている。もっとも、当時は広報ではなく弘報という字が使っていた。あの紛争の最中であって、理学部内の情報伝達や情況報告に弘報がはたした役割は大きかった。その後の一年の経過は、初代編集長の福島さんが Vol. 2, No. 2 (昭. 45. 2. 15) に書いておられる。そして、その号が私の代になって初めて編集したのもでもあった。この頃になると学内も落ち着きを取り戻し、広報の中にも何か肩のこらないものを入れたくなり、“理学部 ところどころ”という項を新しくつくった。最初はまず身近なことで、物理教室で発見されたペルリの天秤をとりあげた。“ところどころ”は、理学部の歴史の中で書きとめておいた方がよいと思われる資料、あるいは理学部に関係のある施設などを紹介するという趣旨ではじめた。福島さんからだったと思うが、「変なことを書くと、ある日ホトホトとドアがノックされる。出て見ると名誉教授の方が立っておられ、“アノ記事ハ間違ッテオール”とお叱りを受けますよ」と大分脅かされたが、幸にしてそんなこともなかった。事務長の吉野さんには、伊能忠敬の測量器から明治時代の教授の俸給から馬にいたるまで、実に多くの資料を出していただき感謝している。まだまだストックがあるらしいので、これから何が出て来るか楽しみである。

編集で何がつらかったかといえば、久保前学部長に誤字を指摘されるのには参った。小学校の書取の成績のことが題をかすめたりさえした。つぎは、あまり大きな声ではいえないが、教授会に精勤しなければならぬことである。もっとも、悪いことばかりではない。糊と鉄の妙技をご存じない方々から「さぞ大変でしょう」と同情され、「それはモー」とひたすら他の雑用に対しての予防注射とすることに扱いはなかったつもりである。

いまから振り返ってみると、肩のこらない読物を入れた以外は何もしておらず、冷汗が出る気がする。といっても、いろいろと試みたことはあって、いまでもやりたいことは、学生や職員の人々の率直な意見をのせることである。大学院自治会や職員組合に当たっても見たのだが、

理学部官報として受けとられ(実際にそういう性格はある)、反響はなかった。しかし、これは今後とも考えるべきことではないかと思う。理学部広報、理職ニュース、自治会ニュースが廊下でただスレ違っているだけでは能がないというものである。もう一つは、理学部のメンバー全員の顔写真をのせることである。紛争中はいろいろな教室や他学部の方々とのおつき合いも広がったが、まただんだんお名前と顔の一致が悪くなって来た。一寸面倒かもしれないが、年度末の教授会でとる写真を使うとか、各教室別や職種別にやるとかいろいろ手があると思うし、事務的にやればあまり手数はかからないのではないか。

まだまだいくらでも書けるような気がするが、きりがないので、最後に広報の分布状況を表にして終らせた。皆さん、御協力本当に有難うございました。

(物理 和田昭允)

#### 理学部広報の配布先

配 布 先	部 数
庶務課企画掛	20部
医学部	10部
学内広報掛	1部
北海道大学	2部
東北大学	2部
東京教育大学	2部
東京工業大学	2部
名古屋大学	2部
京都大学	5部
大阪大学	2部
広島大学	2部
九州大学	2部

#### 編集後記

本号から、理学部広報の編集を命じられました。生来筆不精でまた種々の情報にも疎い私に広報委員が無事つとまるかどうか心配です。ここにあらためて理学部に関係する全ての方々の御指導と御協力をお願い致します。とくに、前任者和田先生のときに引継ぎまして、御意見や記事を積極的にお寄せ下さるようお願い致します。

塩田 徹治

理学部一号館 315 号室

電話 内線 2866

(または 3108 数学秘書室)